VALU騒動について

 Ｗ28-0220Ｂ　須藤健太

1. **VALUの概要**
* 個人の価値を株式会社のように見立てて、VA（疑似株式）の特権を売買する仕組みのこと。
* VALUは現金で取引できない。
* 兌換性また暗号通貨であるビットコインを使用する→証券取引法の対象から外れる。
1. **VALUのしくみ**
* VALUの発行者はVAを売って利益を得る＝ビットコインの獲得
* VALU発行者は発行できるVA総数を自分で決定でき、かつ最初の売り出し価格も決定できる。
* 株に似た特性を備えているため、値段上昇が起きたら第三者に売却可能。売買手数料は発行者が売る販売価格の10％とされる。
* 発行者はVAの値段を上げるために優待を設定することが可能→イベント参加・特産品の送付など。
* 換金性の高いものやことを優待とすることは禁止とされている。
* 集めたビットコインはビットコイン取引所に送金の後その時のレートで換金が可能→2017年10月2日の時点で1ビットコイン約492315.5円
1. **VALUの歴史**
* 2017年5月31日から小川晃平がVALUを運営。
* 金銭的理由で断念したことをファンの支援を通して実現させる為に、ビットコイン・ブロックチェーン技術を用いて開発。
* 国が管理してないビットコインやインターネットを通して対等のお金のやりとりを目的とする。
* 今では知名度を上げるためにクラウドファンディングを開催。
1. **VALUの弱点**
* すでに個人が影響力を持っていると、その人を応援してみたくなってしまう心理が働きやすい。
* 特定の人を除き、SNS上のみのコンタクトで支援するか決めなければいけない。
1. **H氏とは**
* YouTuberとして多くの視聴者から人気。
* 多額のお金を使う動画が有名　例：競馬で1000メートルの直線に1000万円賭けてみた
* テキ屋に当たりくじはあるのか解明する動画も配信しており、そういった誰しも知りたいことに取り組む姿勢が多くのチャンネル登録者数を記録したり、知名度が上がった理由とされる。
1. **VALU騒動**
* 2017年8月10日、H氏と他同事務所の2人がVALUを開始。
* 8月14日H氏らが自分たちのVALUの買いを伸ばす為に、優待をほのめかす発言をSNS上に載せる。
* 3人のVALUの値段は人気があった為に値上がりし、優待内容を前にストップ高。
* 8月15日にH氏のマネージメントをするI氏が保有していた3人のVALUを売り払う。
* 3人は自身の全VALUを終日の終値で売り出す。
* 結果H氏のVALUは大暴落し、3人は1億近い利益を得たが、インサイダー取引を指摘する批判が殺到している。
1. **まとめ**
* 今回の一件は今や有名となったYouTuberがインサイダー取引をした疑いが濃厚故に話題となっているが、VALUのシステム上インサイダー取引になる可能性は低いとされている。このままでは被害に遭った方の怒りは収まらないことは言うまでもないので今後どういった対応になるのか注目していきたい。
* 本来VALUとは、金銭的理由で断念したことをファンの支援を通して実現させる為に開発されたものである。しかし、今回の騒動のように影響力のある人が暴走すればその目的は金稼ぎになるだけでなく、VALUに対する世間のイメージは簡単に壊れてしまうことが判明した。この事実を知ってしまった小川さんの気持ちは察するに余りある。

語句

**暗号通貨：**暗号理論を用いて取引の安全性の確保や新たな発行の統制をする仮想通貨の一種。また国や政府は発行しない。

**暗号理論：**暗号や暗号解読を扱う理論。

**インサイダー取引：**会社の内部者が会社の重要事実を知りながら、その事実が公表される前にその会社の株券等を売買すること。